



土左改田白蓮社  
 無盡菴貫三撰  
 蓮於實

特別  
 6590  
 10



芭山上人者、書画をたし、又能詩を  
て、名邦国より、一年の法、亦、  
の杉、向、菴の、強、定、を、訪、ひ、此、で、保、平、  
の、ま、い、高、祖、の、一、十、遠、と、法、南、教、之、護、国、寺、  
辨、し、を、れ、り、有、馬、入、師、し、を、芭、山、米、道、  
院、法、師、の、坊、に、杖、と、り、秋、の、比、に、病、り、  
床、に、臥、し、終、く、高、祖、自、稱、只、の、院、  
六十、餘、年、安、樂、れ、化、縁、つ、て、高、祖、乃、  
入、定、一、の、芭、山、に、永、覺、を、修、り、人、身、も、其、  
ま、ま、之、節、を、ま、り、芭、山、に、ま、あ、れ、故、国、  
に、別、舊、好、族、と、い、つ、て、悟、然、と、り、て、  
と、お、も、ま、あ、り、以、て、夏、子、里、杖、を、芭、山、に、曳、て、  
去、来、れ、旅、中、に、笑、も、咽、も、何、と、も、り、涙、を、拂、  
場、に、来、て、血、を、泣、き、つ、て、蜀、魂、と、呼、偈、と、し、  
て、高、祖、の、先、法、夫、の、み、と、早、く、一、の、大、祥、云、  
と、あ、れ、い、は、ぬ、と、い、つ、て、い、お、じ、や、と、い、お、



と、舊、族、の、法、凡、士、の、書、画、之、味、會、と、ま、  
佛、在、の、百、顏、の、追、崇、と、り、一、行、得、り、念、乃、  
群、世、に、教、を、廣、く、種、を、行、一、卷、を、持、り、  
載、け、の、靈、魂、と、思、う、且、聖、の、法、凡、士、上、人、  
の、位、化、を、成、す、の、謂、を、ん、と、土、依、の、乞、士、ま、り、  
葦、貫、三、日、旅、の、用、と、か、こ、う、一、く、天、保、七、申、  
年、冬、其、後、月、朔、誠、惶、故、首、と、い、白

蓮の葉や何ぞも飛んても元の志 芭山

園りれ月のこゝも寂光 里水

秋のうらみも茶室の岩よりて 一閑

眉かく婦のまれもまゝより 好古

心もまゝもまづやんぞれ朝のうら 風園

瀾津の鶴のねもまゝありて 室柁  
子連振神の由留もれ此のまゝと 月海  
雲ひしほに静れ 友 子 壺友

龍年の山定すりなるまや金志 法雨  
 茶れ橋時の々々 香るの瓜 然雲  
 七りもかきくは花よ啼き雀 其地  
 漢を有るは温帯と区画 可洗  
 下より紐に紫茶の款と現ハル 三國  
 多またにあくぬ四代の金銀 ぬ杉  
 一々徳に所をさるるを書らり 洒素  
 清きさうして仇名をさるれ 未悉  
 思ひもぬるに傷れ身うらへ 欽古  
 流りも麻痺の苦さをいさ 玄二  
 州へまよふて野一面の月弘一 龍場  
 雲すけりくちと運いさる 漢高  
 役りれ名もさるるも亦隠居 兼石  
 年よりて虫のふー焼物 費之

曉とすさくとも花乃さ舞止 志凡  
 かもよとつて吊ひのまへ 東之  
 七経分り

冬も雪のふり雪を初めて  
 春も花のひらいて  
 夏も木かげ  
 秋も紅葉

秋風の老をえまこと吹ぬと 一雨 志摩山叙  
 稲妻れ移りた浅き林うね 志凡 初念山  
 舟るの果ては海山子のうきさす 其地 志摩山  
 江の面や秋の老りくもれ 龍陽 志摩山  
 一々ぬれ煙くして白ひけ 月海 吉祥  
 柳さしや月の霞を山こもり 里枕 志摩山  
 月ゆく錦うらや野をうめ 東之 五山  
 坐禅する意とあくや麻の多 好古 五社  
 空けり指の隙やま川おそ 鳳園

綿河内の織物のあり草のそん 乾雲

まよふまよふのまよふやあま田村 三因

昔の雲の向ひ三舟のまよふ麻のそん 臺友

赤房や林味見の紅雲ち 可流

十六のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 酒素

行く行くのまよふまよふ舟のまよふのまよふ ぬ杉

秋の雲舟のまよふまよふのまよふのまよふ 赤松

海走や舟舟のまよふのまよふのまよふ 秋古

尚書のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 茶石

萬のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 璞高

十六のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 松二

蘭舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 碧三

松舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 里水

お国の分身舟のまよふ舟のまよふ

追か

春舟かりく時や芒のまよふれ口 楓高

夕舟や小巻のまよふと舟のまよふ 旭松

五舟天や地も舟のまよふと舟のまよふ 龍龍

岩舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 三仁

車舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 赤松

お筒舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 碧松

音舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 三四

文圃

早舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 雲吹

世舟のまよふまよふ舟のまよふのまよふ 三舟

お八日月

赤松信乃

